

江戸・明治 百姓たちの山争い裁判



発売日: 2017年8月18日

出版: 草思社

著者: 渡辺 尚志

ページ: 286

PDF

江戸時代の百姓たちにとって、食料、田畑の肥料、燃料、建材など山から得られる資源の確

保は、死活問題だった。山は近隣の村々で共同利用されることが多かったが、山のどこまでが自村の領域かをめぐって村々はしばしば対立し、領主や幕府にしきりに訴訟を起こした。時を経て明治を迎えると、政府の近代化政策により村々は村境画定を迫られ、山争いはいっそう過熱してゆく。山をめぐる熾烈な争いと相互協力への努力を、当事者の肉声をふまえて克明に描く。

<https://rapidgator.net/file/69bd324dd8fbceb925fe3b54295fbe9b/zUzxb7xo8.pdf.rar.html>